

3. 県有施設詳細調査

3-4. その他、県有施設別の詳細検討

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

陸上競技場の施設概要

項目	施設情報
構造・階数	メインスタンド：鉄筋コンクリート造、鉄骨造 地上2階、地下1階
建築・延床面積	延総面積43,656㎡ 建物面積メインスタンド：3,245㎡、観覧席：3,020㎡ 芝スタンド：5,612㎡
建築年	昭和62年（1987年）3月【築39年】 平成27年（2015年）2月【改修】



項目	仕様・概要
構造・表層	第1種公認／400m×8レーン／全天候型／天然芝フィールド
縦(m)×横(m)	106×70
面数等	<ul style="list-style-type: none"> 投てき(砲丸・ハンマー・円盤・やり) 跳躍(幅跳び・三段跳び・棒高跳び) 3,000m 障害用設備 雨天走路70m×4レーン
照度(ルクス)	1500
観客席数 (固定席)	<ul style="list-style-type: none"> メインスタンド：7,000人、立見席含む（うち、車いす観客席11席）（車いす観客席割合：0.16%） バックスタンド：3,840人（うち、車いす観客席6席）（車いす観客席割合：0.16%） ゴール裏：1,430人（うち、車いす観客席0席）

(1)県総合運動公園 陸上競技場

施設の老朽化状況

- 陸上競技場は、主競技場・サブグラウンドともにトラック舗装の全面改修が必要であるほか、照明、大型映像装置、埋設ケーブルなど設備面の老朽化も進行しており、国スポ開催に向けて優先的な更新が必要である。
- 建築面でも、写真判定室への階段や外壁に補修を要する箇所が見られる。

■施設の老朽化状況

区分	箇所	現況・劣化状況	推定劣化度
建築	メインスタンド躯体	<ul style="list-style-type: none">主要躯体に直ちに重大な劣化は読み取りにくい。写真判定室への階段など局所的な老朽化がみられる。	B
	外壁	<ul style="list-style-type: none">経年劣化が見られ、ひび割れや汚損等に対する維持補修が必要。	C
設備	照明・映像・電源・埋設配線	<ul style="list-style-type: none">照明はLED化されているが浸水等による老朽化が進み、大型映像装置は故障が多い。サブグラウンドに電源がなく、埋設ケーブルも国スポ前に更新時期を迎える。	C
競技機能	主競技場トラック	<ul style="list-style-type: none">舗装の摩耗・性能低下が見られ、競技環境確保のため国スポ前に全面改修が必要	D

(A = 良好、B = やや劣化、C = 劣化進行、D = 著しい劣化、E = 重大な劣化 / 更新要)

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

施設のバリアフリー状況

分類	チェック項目	評価	留意点
敷地内通路・出入口	通路幅120cm以上	○	主要動線は概ね確保
	滑りにくい仕上げ	△	一部滑りやすい箇所あり
	段差なし／スロープあり	△	スロープ動線が1箇所のみ
	出入口幅80cm以上	○	主要出入口は確保
	自動ドア等で容易に開閉（外部⇄エントランス）	○	自動ドアあり
	自動ドア等で容易に開閉（エントランス⇄フィールド）	×	手動開閉式
廊下・動線	幅120cm以上	○	概ね確保
	滑りにくい仕上げ	△	雨天時に一部滑りやすい
	階段・傾斜路前に点状ブロック	△	一部のみ設置
階段・傾斜路	手すり設置	△	一部欠落箇所あり
	勾配1/12以下	×	フィールドへのスロープが急勾配
	段鼻色コントラスト	△	一部視認性不足
	滑り止め仕上げ	×	未対応箇所あり
エレベーター	各階停止	○	VIP・報道動線用のエレベーターあり
	配置・数	△	VIP・報道動線用の1基のみ。一般利用不可
	出入口幅・籠奥行確保	×	車いす2台同時利用は不可
	操作盤高さ適正	×	表示・音声案内なし
便所	車いす用便房あり	○	設置あり。改修は必要
	オストメイト対応便房	○	設置あり。改修は必要
	出入口段差なし	×	各トイレに段差あり
	手すり・便座配置適切	△	一部対応
駐車場	車いす用区画（幅350cm）	△	台数不足
	出入口近接配置	×	やや離れている
案内・標識	駐車場バリアフリー案内表示	○	案内表示あり
	点字・誘導ブロック設置	○	案内所（管理室）まで設置あり
客席・観覧席	車いす席確保	△	一定数確保が必要
	同伴者席隣接	△	車いす席数と併せて一定数確保が必要

資料：沖縄県福祉のまちづくり条例等を参考に作成

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

国スポ施設基準との適合性

- 主要な競技施設基準には概ね適合しているが、監視カメラの不足と観客収容条件の確認・補強が課題である。国スポ開催に当たっては、安全管理体制の強化と観客席計画の整理が必要である。

国スポ開催施設基準	適合性
■日本陸連公認の第1種競技場である	○
1周の距離 400m	○
競走路 8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする	○
距離の公差 +1/10,000以内	-
障害物競走設備 水壕は、レーンの内側または外側に設置する	○
各種跳躍場及び各種投てき場 仕様に示す数とする。ハンマー投と円盤投のサークルは兼用型でもよいが、砲丸投のサークルと兼ねてはならない。	○
高齢者、身障者への配慮 車いす席を設置する。また、その席数については、条例または行政と協議されたい。	○
用器具庫 2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上とする。	○
夜間照明設備 1m220の高さで平均照度1,000ルクス程度とする。また、フィニッシュラインは1,500ルクス以上を確保する。	○
電光掲示板 設置することが望ましい。仮設でもよい。	○
監視カメラ 12カ所必要とする。	× 監視カメラ 4カ所
観客の収容数 15,000人以上(芝生を含む)とする。メインスタンドは、7,000人以上で屋根付きとする。	× メインスタンドは 7,000名
雨天走路 メインスタンドまたはバックスタンド側に必要とする。	○
補助競技場 第3種公認陸上競技場とする。全天候舗装で6レーン以上とし、直走路は8レーンとする。	○
投てき練習場 主競技場の至近に設置する。	○ 補助競技場

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）日本陸上競技連盟「公認陸上競技場及び長距離競走路ならびに競走路規定」及び「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様」からの抜粋

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

競技団体及び沖縄陸上競技協会の意向

■ 競技団体の意向

項目	主な要望
競技機能向上	9レーン化、全天候型舗装、写真判定室改修
大会運営機能	放送室・映像操作室改修、ディレクター室設置、会議室不足解消、情報ケーブル改修
観客対応	3万人収容スタンド改修、大型映像器改修、音響設備改修
利便・管理機能	トイレ増設、駐車場拡充、倉庫整備
共生社会対応	バリアフリー環境整備

■ 沖縄陸上競技協会の意向

項目	主な要望
9レーン化について	<ul style="list-style-type: none"> 9レーン化案については、安全面・運営面の両面で競技運営が難しい可能性がある。 特に、メイン砂場と9レーンの間／バックストレートの棒高跳びマット支柱台設置時／Aゾーン外側、Bゾーン外側（水濠外側）は課題である。 台車やハードル等の運搬動線が確保できるのか。競技中に審判が立ち入る場合、レーンとの十分な離隔が確保できるのが論点になる。 3,000m障害用の水濠が第3～第4コーナー間にあり、移設が必要になる。水濠移設に伴い、観客席の一部撤去・改修が必要となる可能性がある。メインストレート外側の砂場も9レーン化に伴い移設が必要と考えられる。 施工計画においては、陸連本部による図面指導が必要である。
陸上競技場のトラック舗装について	<ul style="list-style-type: none"> これまでの改修により全天候舗装（オールウェザー舗装）が2層構造になっている。それぞれの改修を別業者が施工したためである。 現在の舗装面では、次の競技場公認検定を通らない可能性があるとの報告を受けており、全面張替が必要。

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

施設改修の対応方針の検討

■ 施設改修等の対応方針

施設	区分	主な課題	改修重要度	対応方針（案）
陸上競技場	老朽化	・ 主競技場トラック舗装の劣化	高	改修 ：競技成立と公認継続に直結するため、国スポ開催前の 全面改修を必須 とする。
	バリアフリー	・ エレベーター未整備、車いす動線の偏在、2階動線不足、車いす席不足、トイレ等のユニバーサルデザイン対応不足	高	改修 ：陸上競技の主会場として 恒久対応を基本 とし、EV新設、段差解消、車いす席増設、トイレ改修、動線の複線化を優先する。仮設対応は補完に留める。
	施設基準	・ 監視カメラ不足	高	改修 ：安全管理上の必須項目であり、 恒久設備として増設 し、国スポ開催基準を確実に満たす。
	施設基準	・ 観客収容条件の未充足	中	仮設 ：既存観客席の収容条件を精査した上で、不足分は 大会時仮設席 で補完する。
	運営面	・ フィールド出入口狭隘、競技者・介添者・審判・運営動線の混在、招集所・控室・備品庫不足	高	改修＋仮設 ：大会運営成立条件に関わるため、 諸室再配置を伴う改修 を基本とし、不足機能は仮設諸室で補完する。動線整理は運用面に対応する。

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

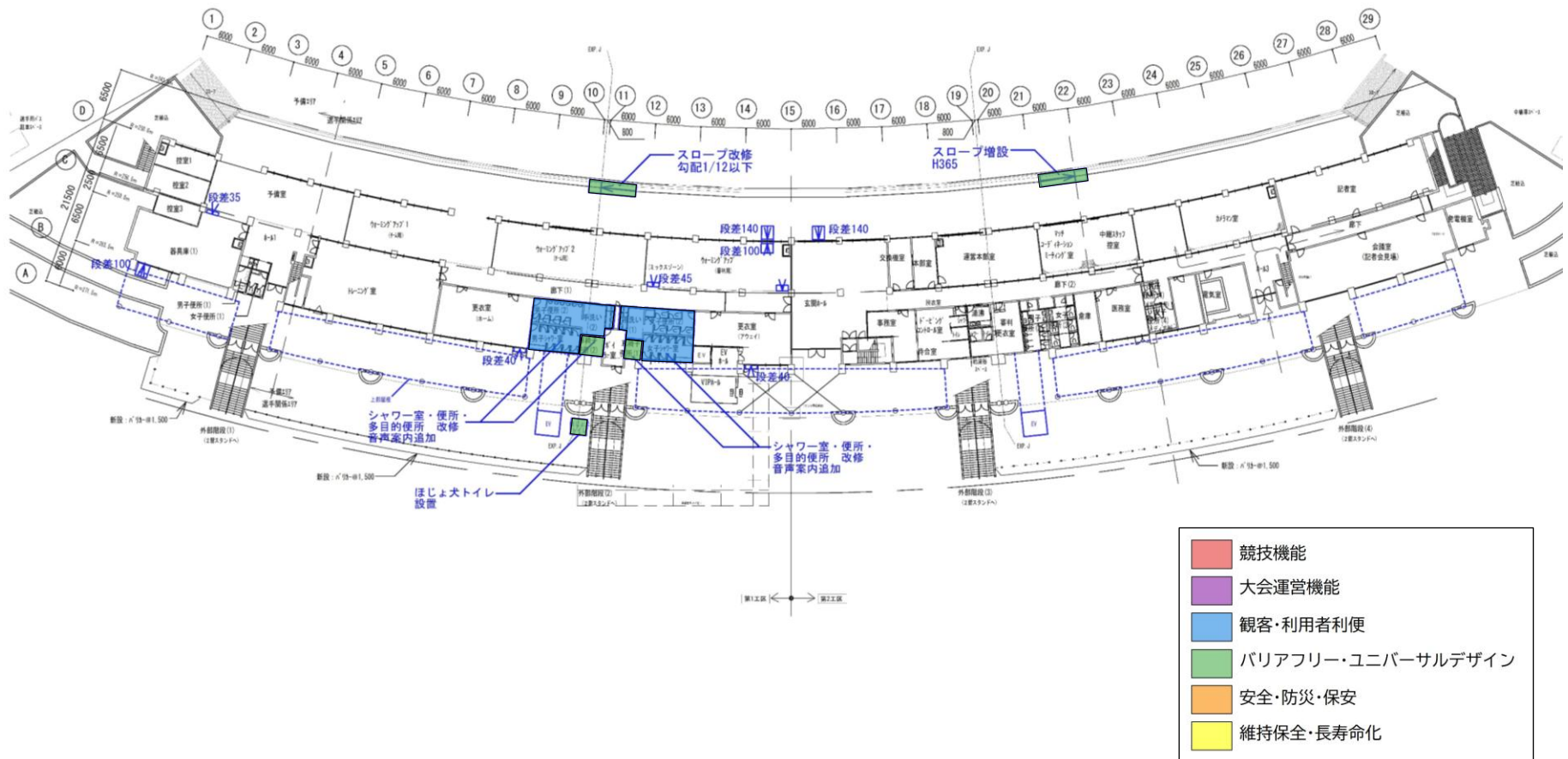
整備箇所の整理

■ 陸上競技場の整備箇所と概要

区分	整備箇所	概要
競技機能	全天候舗装、芝生張替、投てき場等改修	・主競技場・サブグラウンドの競技面を全面更新し、投てき場等を含め公認更新に適合するよう改修
大会運営機能	前面広場待機スペース屋根設置	・待機スペースのための屋根を新設
	通信・ICT	・大会運営等に必要な通信・ICT設備（監視カメラ含む）を更新・増設
	音響	・場内放送設備を更新
	大型映像システム	・大型映像装置を更新
観客・利用者利便性	更衣室・シャワー室改修	・設備等を改修し、利便性を向上
	新設屋根設置（メインスタンド屋根強化）	・観客席の快適性向上のため屋根を新設・補強
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	エレベーター（EV）棟新設	・一般利用に対応したEV棟を新設
	車いす席増設（床組み）	・車いす席設置のため床を改修・増設
	車いす席増設（介助者席）	・車いす席に隣接する介助者席を増設
	サイドスタンド車いす席（床組み）	・サイドスタンドに車いす席を新設
	サイドスタンド車いす席増設（介助者席）	・サイドスタンドの介助者席を増設
	競技場外部 北-4、6多目的便所改修	・多目的便所をバリアフリー基準に合わせて改修
	出入口・ロビー・廊下の段差解消	・段差解消及び動線の平滑化を実施
	1階多目的便所改修	・1階多目的便所を機能更新・再整備
	2階多目的便所改修	・2階多目的便所を機能更新・再整備
	競技場へのスロープ追加（2箇所）	・主要動線上にスロープを新設
	スタンド周回通路バリアフリー	・通路幅・段差・手摺等を改善し円滑な移動動線を確保
	音声案内追加	・視覚障害者対応の音声案内設備を設置
	補助犬トイレ設置	・補助犬利用者に対応した設備を新設
	安全・防災・保安	LED照明改修
維持保全・長寿命化	外壁補修	・劣化部の補修・再塗装等を実施
	衛生設備改修	・給排水・衛生設備を更新・改修

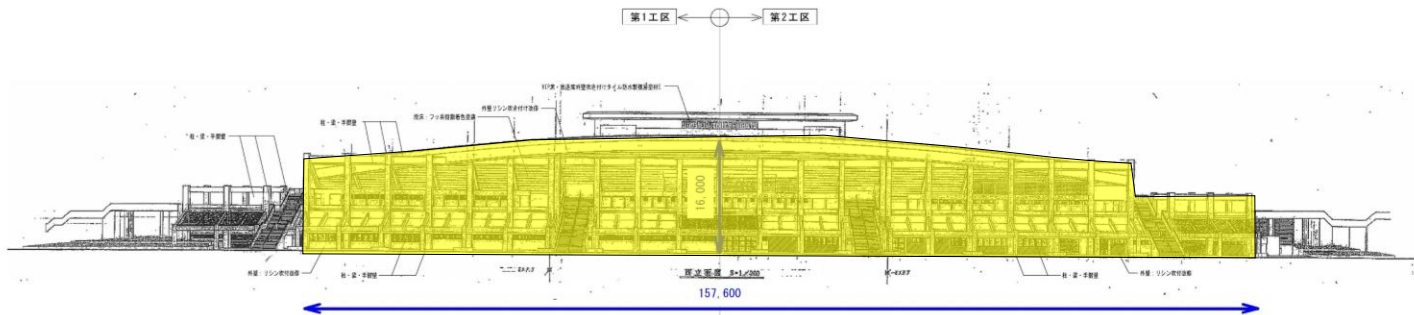
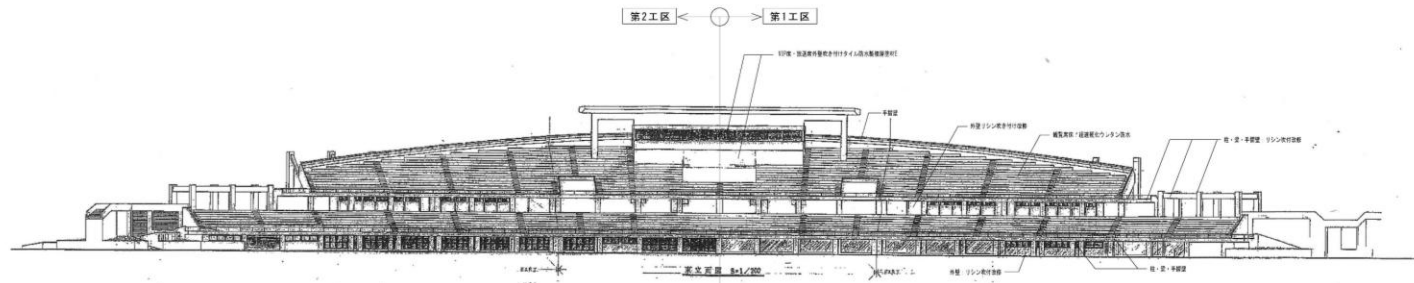
(1) 県総合運動公園 陸上競技場

整備箇所イメージ図(メインスタンド1階)

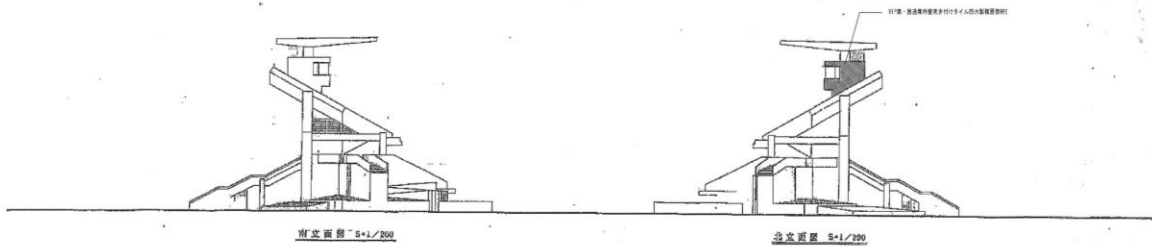


(1) 県総合運動公園 陸上競技場

整備箇所イメージ図(立面図)



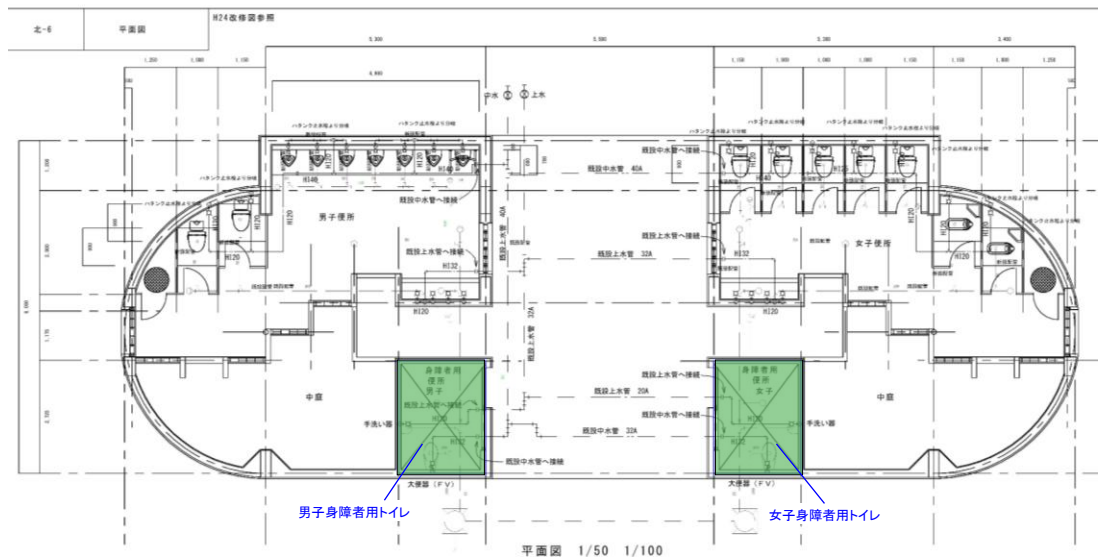
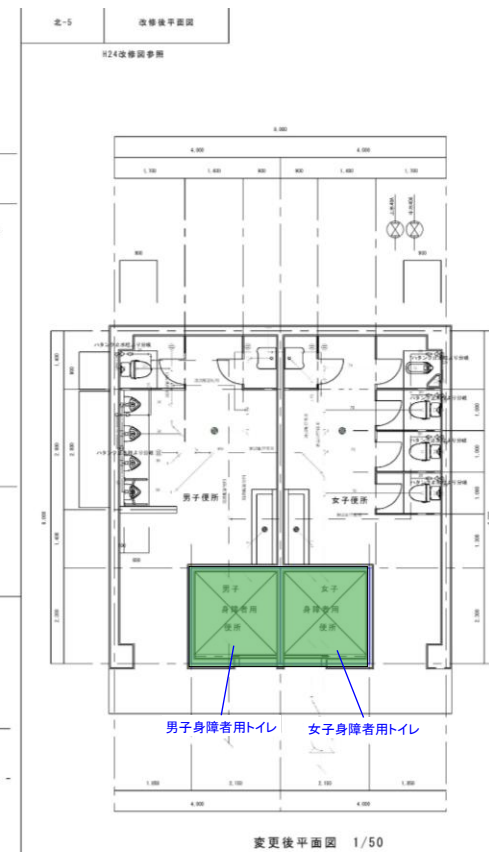
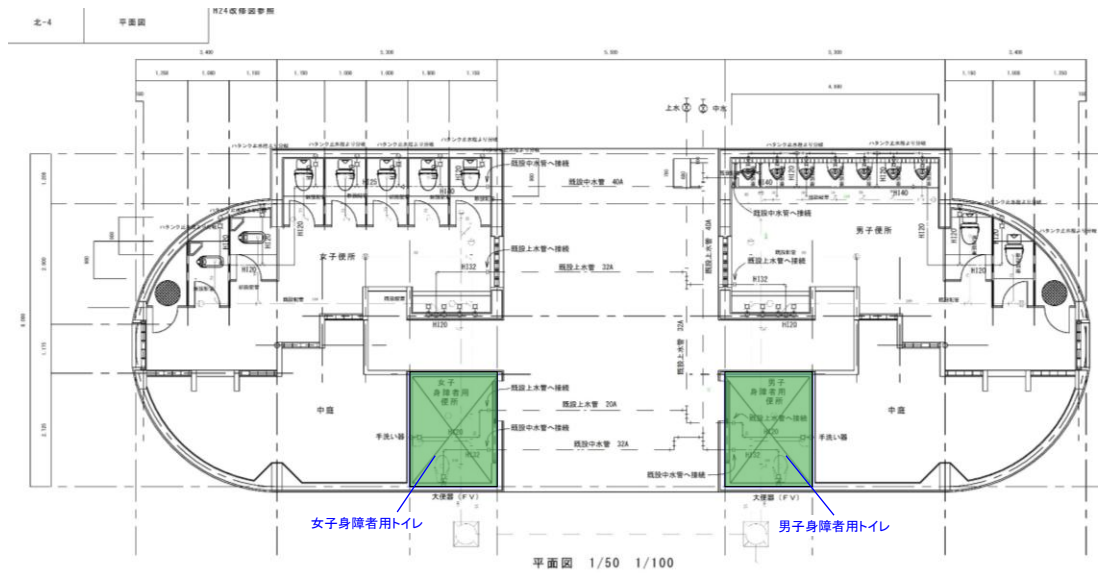
外壁補修面積 $16 \times 157.6 = 2521.6$
→ 2522㎡



- | | |
|--|-------------------|
| | 競技機能 |
| | 大会運営機能 |
| | 観客・利用者利便 |
| | バリアフリー・ユニバーサルデザイン |
| | 安全・防災・保安 |
| | 維持保全・長寿命化 |

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

整備箇所イメージ図(身障者用トイレ)



- 競技機能
- 大会運営機能
- 観客・利用者利便
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- 安全・防災・保安
- 維持保全・長寿命化

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

整備案の比較整理

- 国スポ開催に向けた整備内容等の違いを整理するため比較表を作成した。A案は必要機能を優先した案、B案は観客環境と気候対応を強化した案、C案は抜本的再整備案である。ただし、C案はコスト・工期の面でハードルは高い。

■整備案の比較検討

項目	A案：既存メイン・サイドスタンド改修案	B案：メインスタンド屋根強化案	C案：メイン・サイドスタンド建替案
改修内容	<ul style="list-style-type: none"> 既存スタンドを活用し、国スポ開催に必要な機能を重点改修。 EV新設、車いす席増設、多目的トイレ改修、スロープ追加、周回通路バリアフリー化・前面広場待機スペース整備、更衣室・シャワー改修・LED照明、通信・ICT、音響、大型映像更新・トラック・フィールド全面改修等 	<ul style="list-style-type: none"> A案の内容に加え、メインスタンド屋根を強化。 屋根被覆範囲の拡張・観客の暑熱・雨天対策を強化・荒天時の退避・待機環境を改善 	<ul style="list-style-type: none"> メイン・サイドスタンドを建替え、観客席・諸室・動線・設備を一体再整備。 EV、トイレ、観客席、諸室、競技運営諸室を再配置・屋根、観客空間、動線計画を全面見直し・トラック・フィールド全面改修等
主に対応する機能区分	①バリアフリー・ユニバーサルデザイン ②競技機能 ③大会運営機能 ④観客・利用者利便性 ⑤安全・防災・保安 ⑥維持保全・長寿命化	A案に加え、 ④観客・利用者利便性の更なる強化 ⑤安全・防災・保安の更なる強化	①～⑥すべてに包括対応
効果（課題対応）	国スポ開催に必要な 最低限かつ主要な課題対応 を図る案。特に、競技機能、バリアフリー、設備更新、大会運営機能の改善に有効。	A案の機能改善に加え、 観覧環境と気候対応 を強化する案。特に、暑熱・降雨時の観客環境、開閉会式運営の改善に有効。	抜本的な再整備 により、老朽化、動線、観客環境、諸室不足、設備更新を総合的に解消する案。
コスト概算	約32.4億円	約47.4億円	約92.0億円
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設活用のため、コストを抑えやすい 工期、施工リスクを比較的抑制できる 国スポ開催に必要な主要機能を優先的に改善できる 	<ul style="list-style-type: none"> A案の利点を維持しつつ、観客快適性と気候対応を向上できる 暑熱、雨天時の観覧・待機環境を改善できる 開閉会式や大会時の運営環境向上が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解消効果が最も高い 動線、観客席、諸室、設備をゼロベースで最適化できる 長寿命化、将来利用、レガシー形成の観点で優位
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 既存スタンド制約が残る 屋根不足、観覧快適性の改善は限定的 抜本的な長寿命化には至りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> A案よりコスト増となる 既存スタンドを前提とするため、構造的制約は残る 建替ほどの抜本改善には至らない 	<ul style="list-style-type: none"> コストが最大 工期が長く、施工・調整リスクが大きい 資材高騰や工程遅延の影響を受けやすい

(1) 県総合運動公園 陸上競技場

整備案の概算整理

項目		規模・仕様	単価	数量	単位	改修費概算
A案：既存メイン・サイドスタンド改修						
建築	EV棟新設	着床3階 13人乗身障者対応	71,362,000	3	か所	214,086,000
	車椅子席増設 床組み		3,000,000	6	か所	18,000,000
	車椅子席増設 介助射者席	固定席	70,000	24	か所	1,680,000
	サイドスタンド車椅子席 床組み		80,000	698	m ²	55,840,000
	サイドスタンド車椅子席増設 介助射者席	固定席	70,000	72	か所	5,040,000
	競技場外部北-4、6多目的便所改修		3,000,000	4	か所	12,000,000
	前面広場待機スペース屋根設置	膜屋根	300,000	683	m ²	204,900,000
	出入口・ロビー・廊下の段差解消	スロープ小 (H150以下)	470,000	25	m ²	11,750,000
	1階多目的便所改修		3,000,000	2	か所	6,000,000
	2階多目的便所改修		3,000,000	1	か所	3,000,000
	更衣室・シャワー室改修	床全面改修	40,000	82	m ²	3,280,000
	競技場へのスロープ追加 (2箇所) H365	スロープ大 (H150以上)	340,000	18	m ²	6,120,000
	スタンド周回通路バリアフリー化	スロープ大 (H150以上)	340,000	149	m ²	50,724,600
外壁補修		28,000	2,522	m ²	70,604,800	
機械設備	衛生設備改修		53,000	6,265	m ²	332,045,000
	音声案内追加	1、2階＋外部便所×2	580,000	4	か所	2,320,000
	ほじょトイレ設置	足洗い場仕様	3,000,000	1	か所	3,000,000
電気設備	LED照明改修		304,000,000	1	式	304,000,000
	通信・ICT		5,140	6,265	m ²	32,202,100
	音響		66,268,550	1	式	66,268,550
	大型映像システム		635,898,000	1	式	635,898,000
舗装 (トラック・フィールド)	全天候舗装、芝生張替、投てき場等改修	第1種公認、9レーン想定	1,202,311,000	1	式	1,202,311,000
A案の合計						3,241,070,050
B案：メインスタンド屋根強化						
建築	新設屋根設置	屋根被覆エリア：約3,000m ²	1,500,000,000	1	式	1,500,000,000
	※上記Aの費用計上			1	式	663,025,400
機械設備	※上記Aの費用計上					337,365,000
電気設備	※上記Aの費用計上					1,038,368,650
舗装 (トラック・フィールド)	※上記Aの費用計上	第1種公認、9レーン想定				1,202,311,000
B案の合計						4,741,070,050
C案：メイン・サイドスタンド建替						
建築・設備	※類似事例より推定		8,000,000,000	1	式	8,000,000,000
舗装 (トラック・フィールド)	※上記Aの費用計上	第1種公認、9レーン想定	1,202,311,000	1	式	1,202,311,000
C案の合計						9,202,311,000

(2)県総合運動公園 サブグラウンド

施設の概要

項目	施設情報
建築・延床面積	延総面積43,656㎡
建築年	昭和62年3月（1987年）【築39年】

項目	仕様・概要
構造・表層	第3種公認／400m×8レーン／全天候型／天然芝フィールド／夜間照明 投光機8基（コート分）
面数等	<ul style="list-style-type: none"> 投てき(砲丸・ハンマー・円盤・やり) 跳躍(幅跳び・三段跳び・棒高跳び)
照度(ルクス)	照明なし
観客席数(固定席)	観客席なし



■施設の老朽化状況

区分	箇所	現況・劣化状況	推定劣化度
競技機能	サブグラウンドトラック	・舗装の劣化が進行しており、練習環境確保のため国スポ前に全面改修が必要	D

■沖縄陸上競技協会の意向

項目	主な要望
サブグラウンドについて	<ul style="list-style-type: none"> 海邦国体当時はウォーミングアップ場として機能していたが、現在の大会規模では活動面積・設備ともに不足。 主な不足内容は、①トラック周囲が傾斜芝で、待機・控えスペースが確保できない、②砂場不足、③棒高跳び場がない、④器具庫が仮設プレハブで収納に課題、④電源設備がない、⑤放送設備がない、⑥投擲場の消失。 陸上競技場の9レーン化のみでは国スポ運営には対応できない。サブグラウンドは投擲場を含めた大幅改修が必要。

(2) 県総合運動公園 サブグラウンド

施設改修の対応方針の検討

■ 施設改修等の対応方針

施設	区分	主な課題	改修重要度	対応方針（案）
サブグラウンド	老朽化	・サブグラウンドトラック舗装の劣化（D）	高	改修：サブグラウンドの継続使用を前提に、 全面改修が必要 。
	施設基準	・第3種公認取得に必要な整備不足、投てき練習場未整備	高	改修：補助競技場としての使用を前提に、 舗装全面改修と投てき場整備を恒久的に実施する 。
	運営面	・電源設備なし、放送設備なし、控え場所不足、砂場不足、棒高跳場なし、器具庫が仮設	中	仮設＋一部改修 ：国スポ時に必要な機能は 仮設対応を基本 とし、電源・音響などは整備する。恒久整備は使用頻度の高い機能に限定する。

(参考) 沖縄陸上競技協会の意向

項目	主な要望
サブグラウンドについて	<ul style="list-style-type: none"> 海邦国体当時はウォーミングアップ場として機能していたが、現在の大会規模では活動面積・設備ともに不足。 主な不足内容は、①トラック周囲が傾斜芝で、待機・控えスペースが確保できない、②砂場不足、③棒高跳び場がない、④器具庫が仮設プレハブで収納に課題、⑤電源設備がない、⑥放送設備がない、⑦投擲場の消失。 陸上競技場の9レーン化のみでは国スポ運営には対応できない。サブグラウンドは投擲場を含めた大幅改修が必要。

整備案の概算整理

項目		規模・仕様	単価	数量	単位	改修費概算
建築	園路北-5多目的便所改修		3,000,000	2	か所	6,000,000
機械設備	音声案内追加		580,000	1	か所	580,000
電気設備	電源・コンセント		6,430	10900	m ²	70,087,000
	音響		12,566,440	1	式	12,566,440
舗装（トラック・フィールド）	全天候舗装、芝生張替、投てき場整備	第3種公認	570,636,000	1	式	570,636,000
サブグラウンドの合計						659,869,440

県総合運動公園 陸上競技場／サブグラウンド

陸上競技場及びサブグラウンドの整備案別スケジュールの整理

- 陸上競技場の改修においては、施設利用に配慮し、改修の時期を適切に設定する必要がある。
- 陸上競技場の公認審査に先立ち、あらかじめサブグラウンドの公認審査を完了しておく必要がある。

■工程スケジュール(3案比較)

項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
A案:既存メイン・サイドスタンド改修案				設計(計画含む)	サブグラウンド 施工	陸上競技場 施工			国スポ・全スポ リハール	国スポ・全スポ 本番
B案:メインスタンド屋根強化案			設計(計画含む)	サブグラウンド 施工	陸上競技場 施工					
C案:メイン・サイドスタンド建替案		設計(計画含む)		サブグラウンド 施工 解体	陸上競技場 施工					

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

施設の概要

項目	施設情報
構造・階数	RC造、2階建て
建築・延床面積	メインアリーナフロア面積：2,656㎡（50m×40m） サブアリーナフロア面積504㎡（29m×17m）
建築年	昭和62年（1987年）【築39年】
耐用年数	処分制限期間47年（2034年） 使用見込み期間56年（2043年）



項目	メインアリーナの仕様・概要
構造・表層	競技床（タラフレックス）
縦(m)×横(m)	50×40
面数等	卓球35面、体操トランポリン3台、ハンドボール2面
照度(ルクス)	502
観客席数 (固定席)	2階観客席：1,100席、車いす席なし



(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

施設の老朽化状況

- 体育館メインアリーナは、外装・防水・天井の安全性に関わる老朽化に加え、トイレ・シャワーの老朽化など利便性面の低下も大きい。
- 特に、外壁落下や雨漏り、吊り天井対策は安全確保に直結するため優先度が高く、まずはこれらの対策を講じた上で、設備更新を含めた計画的な改修を進める必要がある。

■ 県総体育館メインアリーナの老朽化状況

区分	箇所	現況・劣化状況	推定劣化度
建築	構造体、外壁・仕上材	<ul style="list-style-type: none">• 外壁の落下が確認。雨漏りもしている。• 仕上材の劣化が進行。	D
	屋根、天井	<ul style="list-style-type: none">• 雨漏りが継続しており、防水性能の低下がみられる。• 吊り天井は耐震安全性の確認・対策が必要。	D
設備	照明	<ul style="list-style-type: none">• 照明のLED化等の更新が必要。	D
	トイレ・シャワー	<ul style="list-style-type: none">• トイレ・シャワー室の老朽化が顕著。	D
	ロールバックチェア	<ul style="list-style-type: none">• 長期間点検されておらず、現状では使用困難。	E

(A=良好、B=やや劣化、C=劣化進行、D=著しい劣化、E=重大な劣化/更新要)

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

施設のバリアフリー状況

分類	チェック項目	評価	補足（現地観察・資料コメント）
敷地内通路・出入口	通路幅120cm以上	○	基本的に基準確保。
	滑りにくい仕上げ	△	老朽摩耗あり。
	段差なし／スロープあり	×	段差多くスロープ未整備。
	出入口幅80cm以上	○	確保済み。
	自動ドア等で容易に開閉	×	手動扉。
廊下・動線	幅120cm以上	○	基本的に基準確保。
	滑りにくい仕上げ	×	濡れていると滑りやすい。
	階段・傾斜路前に点状ブロック	△	一部設置。
階段・傾斜路	手すり設置	△	一部設置。
	勾配1/12以下	△	一部急。
	段鼻色コントラスト	△	明度、彩度不足。一部剥離あり。
	滑り止め仕上げ	△	水分があると滑りやすい。
エレベーター（未整備）	各階停止	×	未設置。
	出入口幅・籠奥行確保	×	未整備。
	操作盤高さ適正	×	未整備。
便所	車いす用便房あり	△	老朽化顕著のため改修が必要。
	オストメイト対応便房	×	未整備。
	出入口段差なし	×	段差あり。
	手すり・便座配置適切	△	L字手すり一部あり。
駐車場	車いす用区画（幅350cm）	△	敷地内限定的（観客規模に対して不足）
	出入口近接配置	×	近接配置なし
案内・標識	バリアフリー案内表示	△	駐車場から案内所（管理室）まで整備。
	点字・誘導ブロック設置	△	一部あり。
客席・観覧席	車いす席確保	×	指定の車いす席はなし。
	同伴者席隣接	×	未整備。

資料：沖縄県福祉のまちづくり条例等を参考に作成

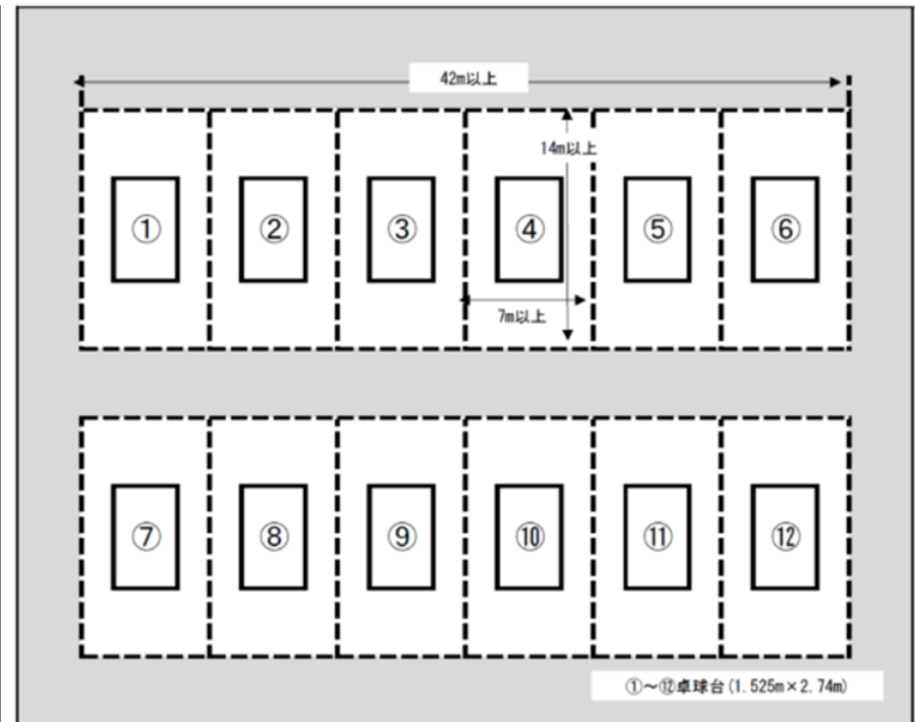
(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

国スポ施設基準との適合性(卓球)

- アリーナ（約2,000㎡）は、卓球競技に必要な12面配置が可能な規模を有している。一方で、照度が基準未達であり、競技面全体の照明改修が必須であるほか、大会時の設営条件としてのコート間距離を整理する必要がある。

■卓球競技(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準	適合性
■規定のコート12面（予備コート2面を含む）を設置することができる体育館	○
※2会場に分離して開催する場合は、各体育館に規定のコート8面を設置することができる体育館	- 12面以上あり
●競技領域は、長さ14m、幅7m以上の長方形で、高さ5m以上なければならない	○
●競技領域は、隣接の競技領域と観戦席から、高さ75cmまたは50cmの均一な濃色の「フェンス」で区切られていなければならない	○
●プレーイングサーフェスの高さで測った照度は、プレーイングサーフェス全面にわたって1,000ルクス以上、競技領域のその他の部分における照度は500ルクス以上でなければならない	× 現況502ルクス
●照度源は、床上5m以上になければならない	○
●背景は全般的に濃色で、明るい照明源、または覆われていない窓を通す日光が含まれてはならない	○
●競技場の床は明るい色、または明るく反射したり、滑りやすいものであってはならず、また、弾力のあるものでなければならない	○



資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、（公財）日本卓球協会「日本卓球ルール」から抜粋

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

国スポ施設基準との適合性(体操競技、トランポリン)

- 体操競技・トランポリン競技ともに、必要な器具設置や空間規模の面では概ね対応可能である一方、照度が基準を満たしておらず、空調設備も未整備であるため、現状では国スポ基準に適合していない。

■体操競技・トランポリン(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準	適合性
規定の各器具を設置することができる体育館	○
(空調設備) 選手に競技しやすい環境を提供できるよう、冷暖房を完備していること	×
(器械器具) 器具寸度については、国際体育連盟が定める基準に基づく	○
体操競技：(広さ) 2,000m ² 以上 (高さ) 12m以上 (照度) 1,000ルクス	× 現況502ルクス
規定のトランポリン器具や安全マットなどが設置できる体育館	○
トランポリン：(広さ) 1,500m ² 以上 (高さ) 10m以上 (照度) 1,000ルクス	× 現況502ルクス
トランポリン：トランポリン器具周辺の安全マットの厚さの基準は20cm	○
新体操：(広さ) 2,000m ² 以上 (高さ) 12m以上 (照度) 1,000ルクス	○
新体操：(演技面) 演技面は内側13m×13m。その周りには最低1mの安全地帯を設ける。なお、演技台を設ける場合は最低2mとする	○

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版(案)」、
(公財)日本体操協会「国民体育大会体操競技の会期及び施設、器械等のガイドライン」から抜粋

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

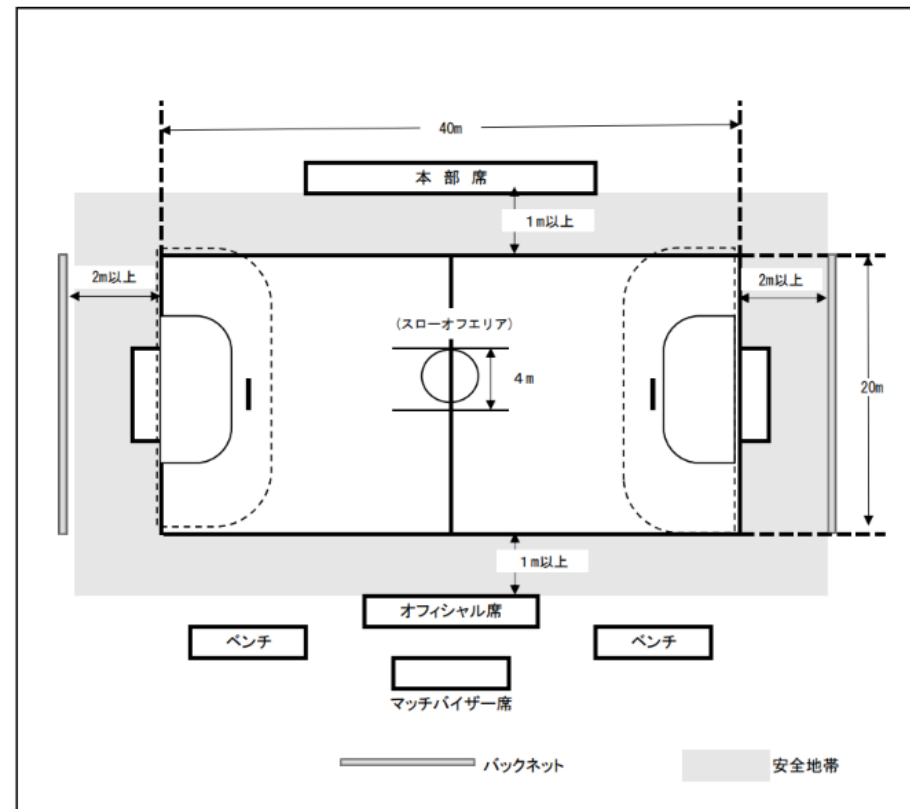
国スポ施設基準との適合性(ハンドボール)

- 天井高さについては国スポ基準に適合しているものの、コート周囲の安全地帯が基準を満たしておらず、現状ではハンドボール競技の開催条件に十分適合していない。

■ハンドボール(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準)	適合性
体育館の天井の高さは10m以上が望ましいが、7m以上でも可	○
コートの周囲には、サイドラインに沿って幅1m以上、ゴールラインの後方に幅2m以上の安全地帯を設けなければならない	×

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）日本ハンドボール協会「ハンドボール競技規則」から抜粋



(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

施設改修の対応方針の検討

- 体育館メインアリーナは、外装・防水・吊り天井・可動席に関する老朽化が進行しており、加えてバリアフリー不足、競技基準未達、諸室不足など大会運営上の課題も重なっている。
- 対応方針は改修を軸とし、まずは安全確保に直結する外壁・防水・天井対策を優先した上で、照明・空調・トイレ・観覧席・動線を計画的に更新し、不足機能は必要に応じて仮設で補完するものとする。

■施設改修等の対応方針

区分	主な課題	改修重要度	対応方針（案）
老朽化	• 外装・防水・天井の劣化（外壁落下、雨漏り、屋根防水性能低下、吊り天井の安全対策必要）	高	改修：安全確保を最優先に、外壁補修、防水更新、吊り天井の耐震安全対策を一体的に実施する。
	• トイレ・シャワー等の老朽化と機能低下	中	改修＋仮設：衛生設備の更新を基本とし、大会時のピーク需要は仮設トイレ・仮設更衣機能で補完する。
	• 可動席（ロールバックチェア）の不具合（使用困難）	中	撤去・改修：可動席は撤去し、倉庫機能として補完する。
バリアフリー	• 主要動線の段差・上下移動への対応不足（段差多、スロープ未整備、EV未整備）	高	改修：主要出入口から観覧席・便所までの動線を見直し、段差解消、恒久スロープ整備、EV新設を基本とする。
	• トイレのUD対応不足（オストメイト未整備、出入口段差、便房改修必要）	高	改修：多機能トイレ化、段差解消、手すり・器具配置見直しなど、恒久的なユニバーサルデザイン対応を行う。
	• 観覧環境のUD対応不足（車いす席なし、同伴者席未整備、案内表示・誘導不十分）	高	改修＋仮設：恒久的な観覧席改修と案内サイン整備を基本とし、大会時は仮設観覧席で不足分を補完する。
施設基準	• 照明・空調設備の機能不足（照明更新必要、卓球・体操・トランポリンで照度基準未達、空調未整備）	高	改修：照明の全面更新と空調新設を基本とし、老朽化対応と競技基準適合を同時に図る。
運営面	• 諸室・更衣・大会運営機能の不足（諸室数不足、更衣室不足等）	高	改修＋仮設：既存諸室の再編・有効活用を基本とし、不足分は大会時仮設諸室で補完する。

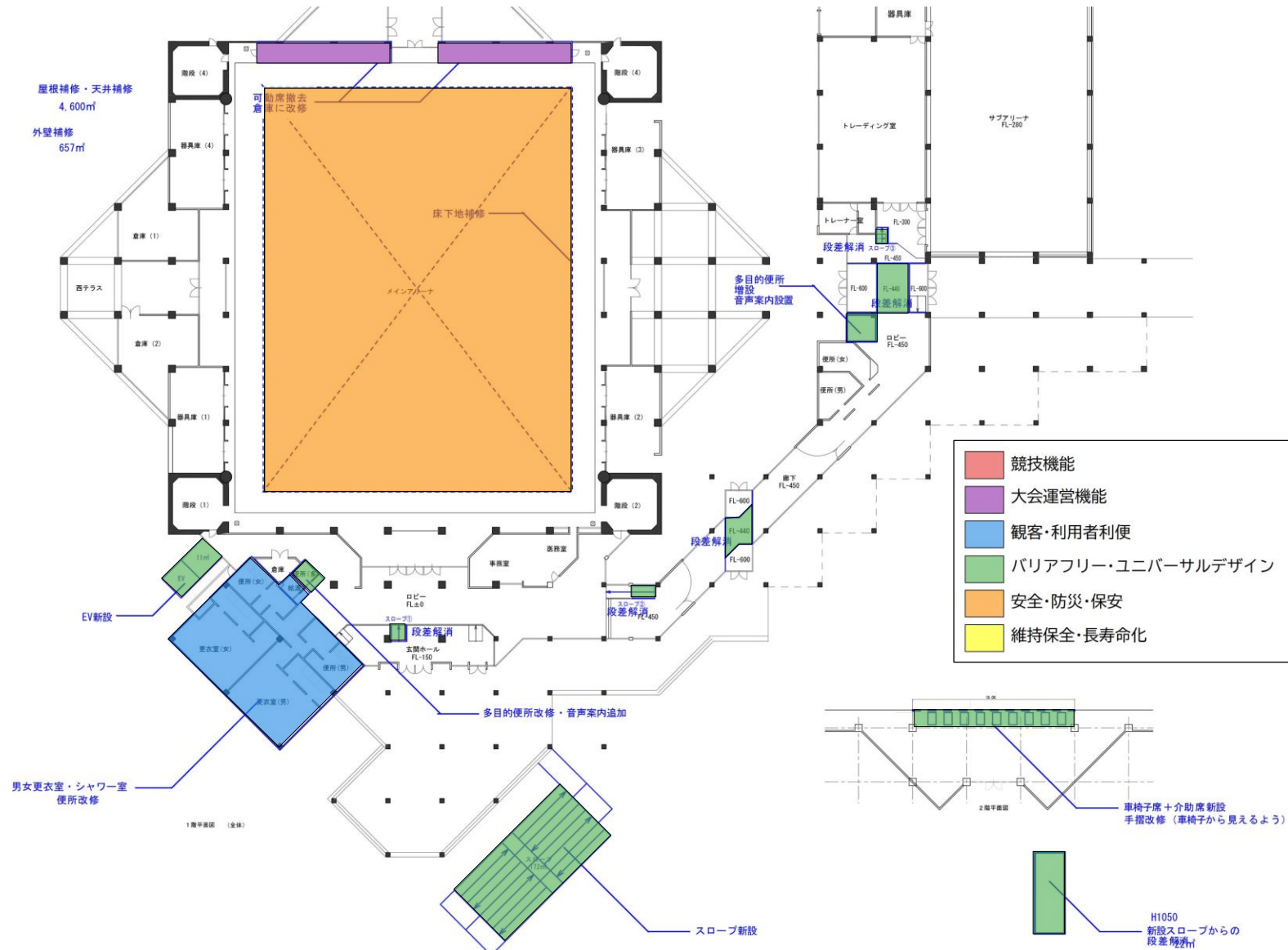
(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

整備箇所の整理

区分	整備箇所	概要
競技機能	LED照明改修	・競技に必要な照度確保のため、アリーナ照明をLED化・更新
大会運営機能	音響	・放送・音響設備の更新
	器具庫設置（床改修・壁改修）	・可動席撤去後に器具庫を整備
	可動席撤去	・動作不良の可動席を撤去
観客・利用者利便性	更衣室・シャワー室改修	・老朽化した更衣室・シャワー室の改修・更新
	空調	・競技者・観客の快適性向上と競技環境確保のため、空調設備を新設
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	EV棟新設	・1・2階間の円滑な移動確保のため、エレベーター棟を新設
	1・2階外部スロープ新設	・段差を解消し、車いす利用者等が移動しやすい外部動線を整備
	多目的トイレ改修	・段差解消、器具更新等により、多目的トイレの利用性を向上
	音声案内追加	・視覚障がい者等に配慮した案内機能として新設
	車いす席＋介助スペース設置	・2階に車いす利用者用スペースと介助者スペースを新設
	車いす観客席手摺改修	・観覧時の安全性向上のため、車いす観客席まわりの手摺を改修
	出入口・ロビー・廊下の段差解消	・主要動線の段差を解消し、館内の移動しやすさを改善
安全・防災・保安	アリーナ天井改修	・吊り天井の安全性確保のため、耐震・落下防止対策を含む改修を実施
	アリーナ床下補修	・床下の劣化箇所を補修し、床の安全性・使用性を確保
維持保全・長寿命化	屋根補修	・雨漏り対策として屋根・防水性能の回復を図る補修を実施
	外壁補修	・外壁材の劣化・落下対策として、外壁の補修・更新を実施

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

整備箇所イメージ図



(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

整備案の概算整理

	項目	規模・仕様	単価	数量	単位	改修費概算
建築	EV棟新設	着床2階 13人乗身障者対応	69,610,000	1	か所	69,610,000
	1-2階外部スロープ新設		292,000	242	m ²	70,664,000
	多目的便所改修	サブアリーナ側1か所追加	3,000,000	2	か所	6,000,000
	音声案内追加		580,000	2	か所	1,160,000
	車椅子席＋介助スペース設置	介助者席 x 9か所	70,000	9	か所	630,000
	車椅子観客席手摺改修（車椅子から見えるよう）		48,000	18	m	864,000
	可動席撤去		5,000,000	2	か所	10,000,000
	器具庫設置 床改修		16,000	68	m ²	1,088,000
	器具庫設置 壁改修		24,000	128	m ²	3,070,080
	出入口・ロビー・廊下の段差解消	スロープ大（H150以上）	340,000	10	m ²	3,502,000
		スロープ小（H150以下）	470,000	41	m ²	19,082,000
	更衣室・シャワー室改修		135,000	228	m ²	30,780,000
	アリーナ床下補修		1,000,000	1	式	1,000,000
	屋根補修		35,000	4,600	m ²	161,000,000
	外壁補修		28,000	657	m ²	18,393,066
	アリーナ天井改修		31,500	4,600	m ²	144,900,000
機械設備	空調		121,000	2656	m ²	321,376,000
電気設備	LED照明改修		23,550	3160	m ²	74,418,000
	音響		46,445,960	1	式	46,445,960
					合計	983,983,106

(3) 県総合運動公園 体育館 メインアリーナ

整備スケジュール案の整理

- 体育館の改修は、安全対策、外皮改修、設備更新、バリアフリー化、諸室整備を同時に伴う総合改修であるため、屋根・外壁・天井改修を先行し、その後に空調・照明等の設備更新、EV・トイレ・シャワー・諸室整備を進める工程設定が基本となる。
- 改修範囲が広く、施工中はメインアリーナの長期利用制限が想定されることから、大会・利用計画と調整したうえで、休館期間、代替施設、仮設対応を含めて施工スケジュールを組む必要がある。

作業項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本設計(基本計画含む)			■						
実施設計			■						
各種手続き等			■						
改修工事				■	■	■			
大会リハーサル								●	
国スポ開催									●